

無法地帯行き 集團痴漢列車

不審者だらけの危険な車両に、少女ひとり……

都市伝説が好きな少女は
終点でも乗客が降りない
謎の電車の噂を知り

あまり治安の良くない
夜の地下鉄に内緒で乗って
該当の駅を見に行ってしまう

少女にとっては
終点で降りたあと
眺めて探すだけの
安全な探検であり

目的地に向かう途中の
車内など全く警戒して
いなかった



小柄な少女は人混みに
埋もれると何も見えず



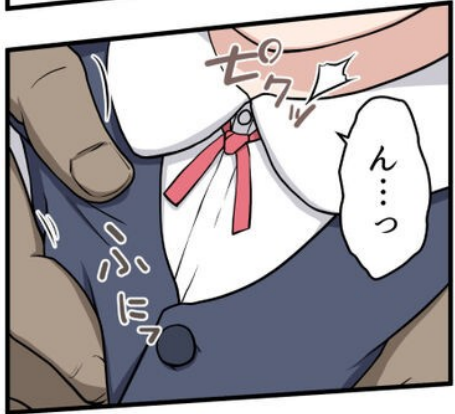
終点に近づくほど
ガラ空きになっていく
暗い地下鉄の中で

自分の周囲だけが
混雑している不審な
状況に気づけぬまま
徐々に道を塞がれていく

ガタン。
ゴト。

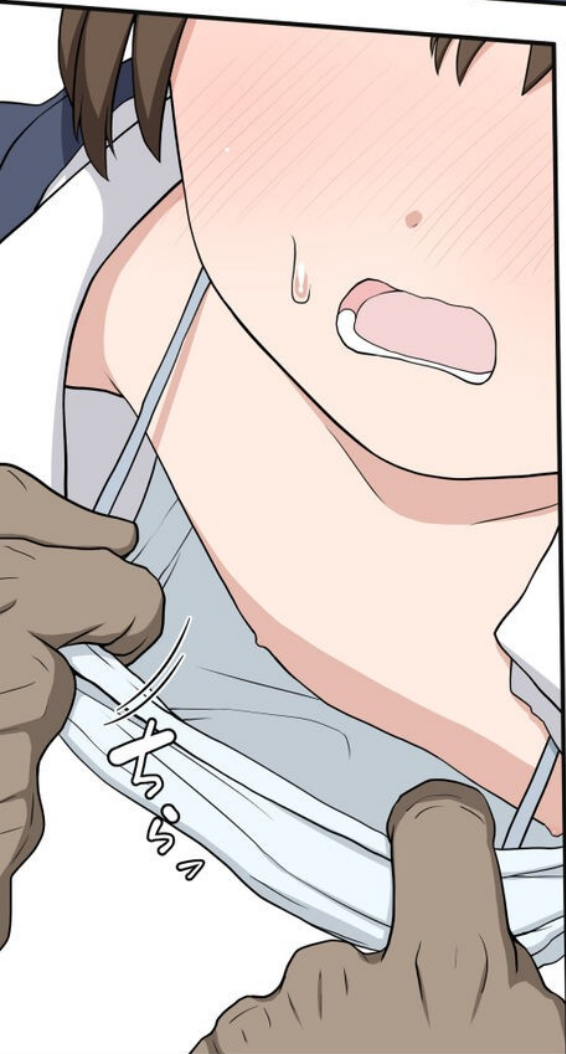
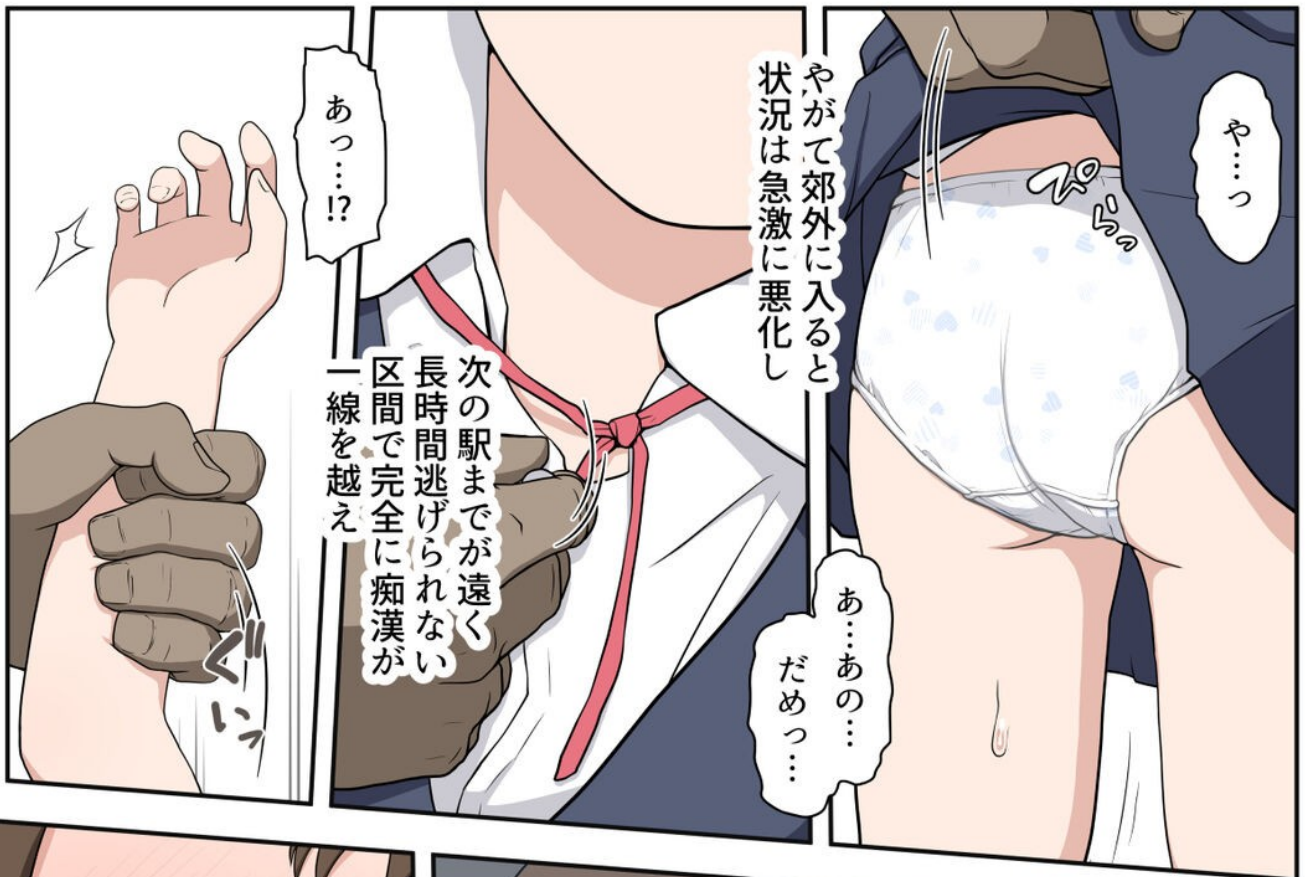
ガタン。

ゴト。



幾つかの駅を過ぎた
辺りから男達の手が
体に触れるようになり





ひらひらとした短めの
スカートの最初から
殆ど何も守れてなく

あ……う……

むにっ

上着を脱がされた
上半身には簡単に
男達の手が侵入し

や……っ

モソッ
モソッ

ついに服の中にまで
及んだ痴漢は少女を
執拗に追い詰めていく

ん……っ

あ……あの……
ダメ……

ガッ
ばっ

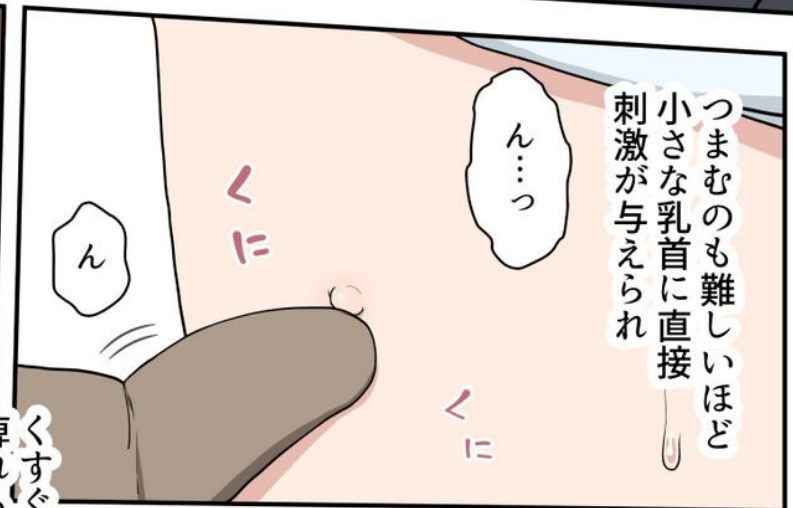
あッ
あッ
あッ



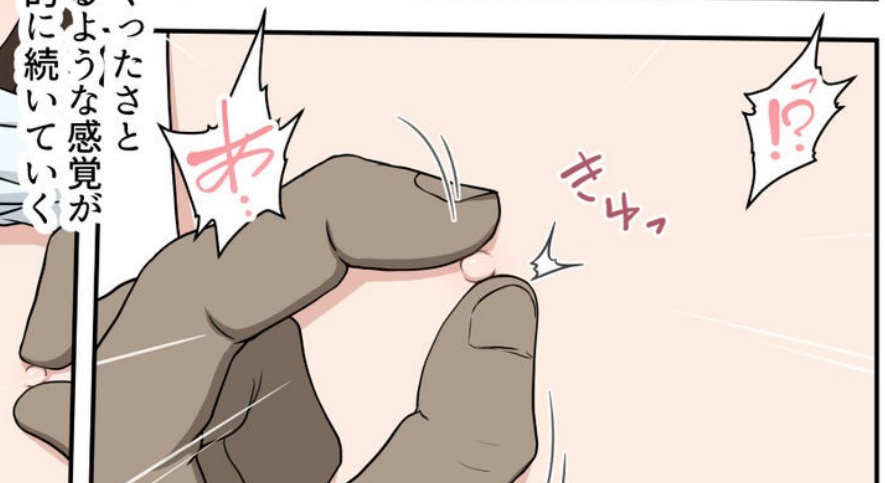
とうとう肌着まで
捲られると色白で
平坦な胸が露わになり



くすぐったさと
痺れるような感覚が
強制的に続いていく



つまむのも難しいほど
小さな乳首に直接
刺激が与えられ



しばらく上半身への
刺激が続いた後

不意にスカートを
腰のあたりまで
捲り上げられてしまい

下着を丸見えにされた
無防備な下半身が
危機に晒されていく

あっ!?

せーっ



すりすり

や...っ
だめ...

ん...っ
ん...
ふに
ふに

!!

あんな!!

!!

未知の強い刺激に驚き
少女は身をよじって
逃れようとするのだが

まだ危機の大きさを
理解出来ず遠慮がちに
行われる偉い抵抗は
当然何の効果も無く

反応すればするほど
弱点を知られてそこを
重点的に責められ
状況は悪化していき



とうとう下着の中にまで
痴漢が及んでしまう



あ…っ
だめっ

だめっ



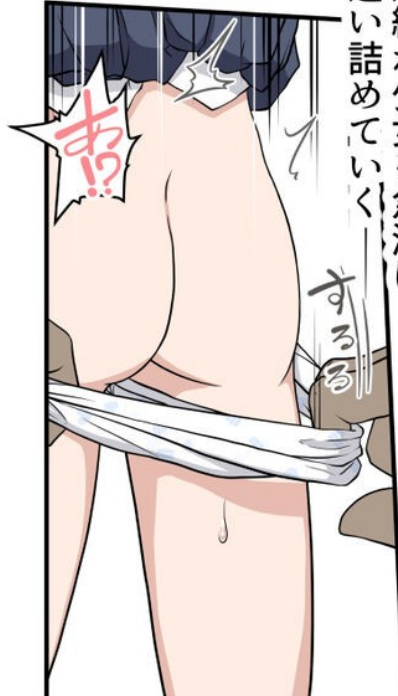
や…
あう…

もぞもぞ

もぞもぞ



長時間に渡る
絶え間ない刺激の
連続が少女を急激に
追い詰めていく



強い刺激に耐えきれず
必死に中断を訴える
少女に対し

無情にも痴漢は更に
段階を踏み越え

な...っ
待って

待って!!
だめ...っ



あっ

どうとう下着まで
脱がされてしまった
半裸の少女は

す
る
る

あっ
いや...っ



だめ...っ
だめ...っ!!

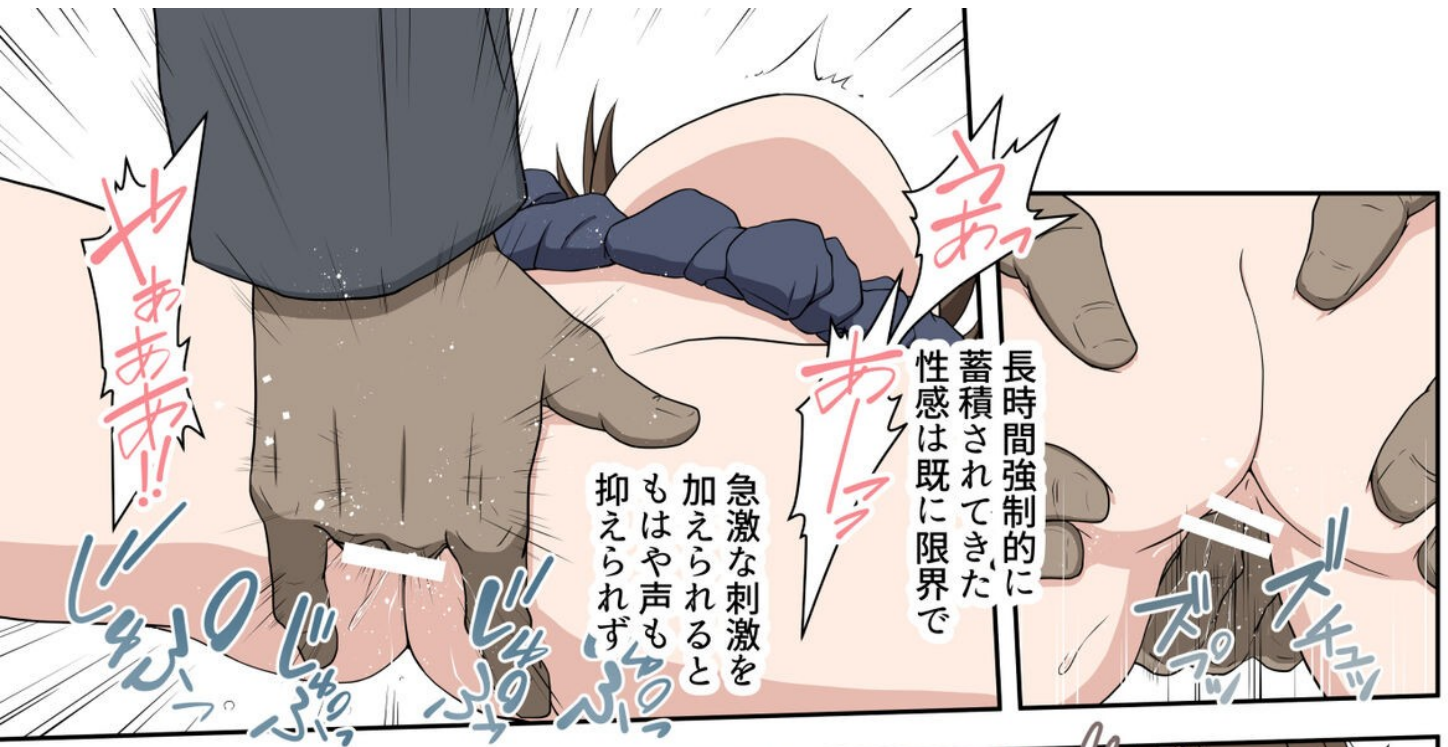
あああ...!!

その無防備な股間を
大勢の男達の前に
晒されてしまう

シク

バク

ガッ
ばっ



長時間強制的に蓄積されてきた性感は既に限界で

急激な刺激を加えられるともはや声も抑えられず

ああああ!!

うあッ

あッ

ブッブッ



追い打ちをかけるように数人がかりで同時に敏感な部分を弄り回されると

ついに少女の中で感覚が許容を超え

あッあッあッ

セッ

あッあッあッ

あッあッ

ちゅちゅ

くっくっ



必死に耐えてきた分
抑えたバネが弾ける様に

強烈な絶頂が少女を襲い
華奢な体が跳ね上がる



乗り換...
の際には...

終点...で...

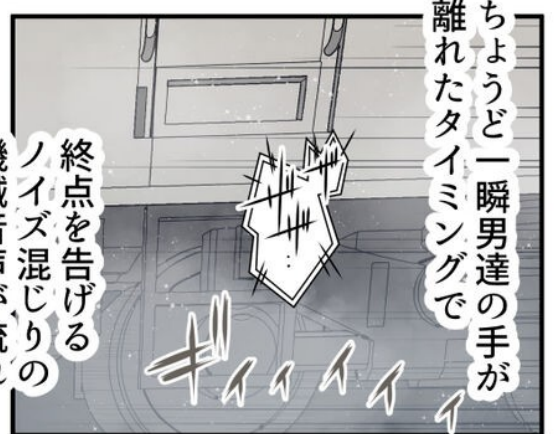
少女はようやく
解放されると
安堵するのだが

あ...



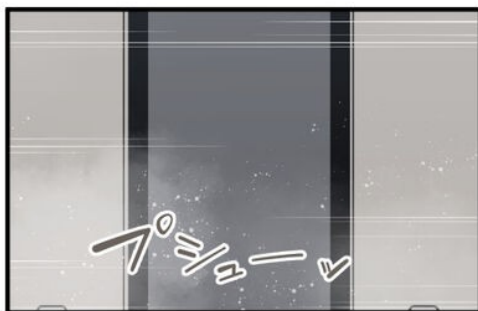
あ...っ!
う...くっ...!

っ...!



終点を告げる
ノイズ混じりの
機械音声が流れ

ちょうど一瞬男達の手が
離れたタイミングで



んんっ!
んんっ!

んんっ!?

回送の筈の電車には
更に不審な乗客が
少女の車両にだけ
大勢乗り込んでくる



うっ
ううっ!?

んんっ!

むぐっ!?

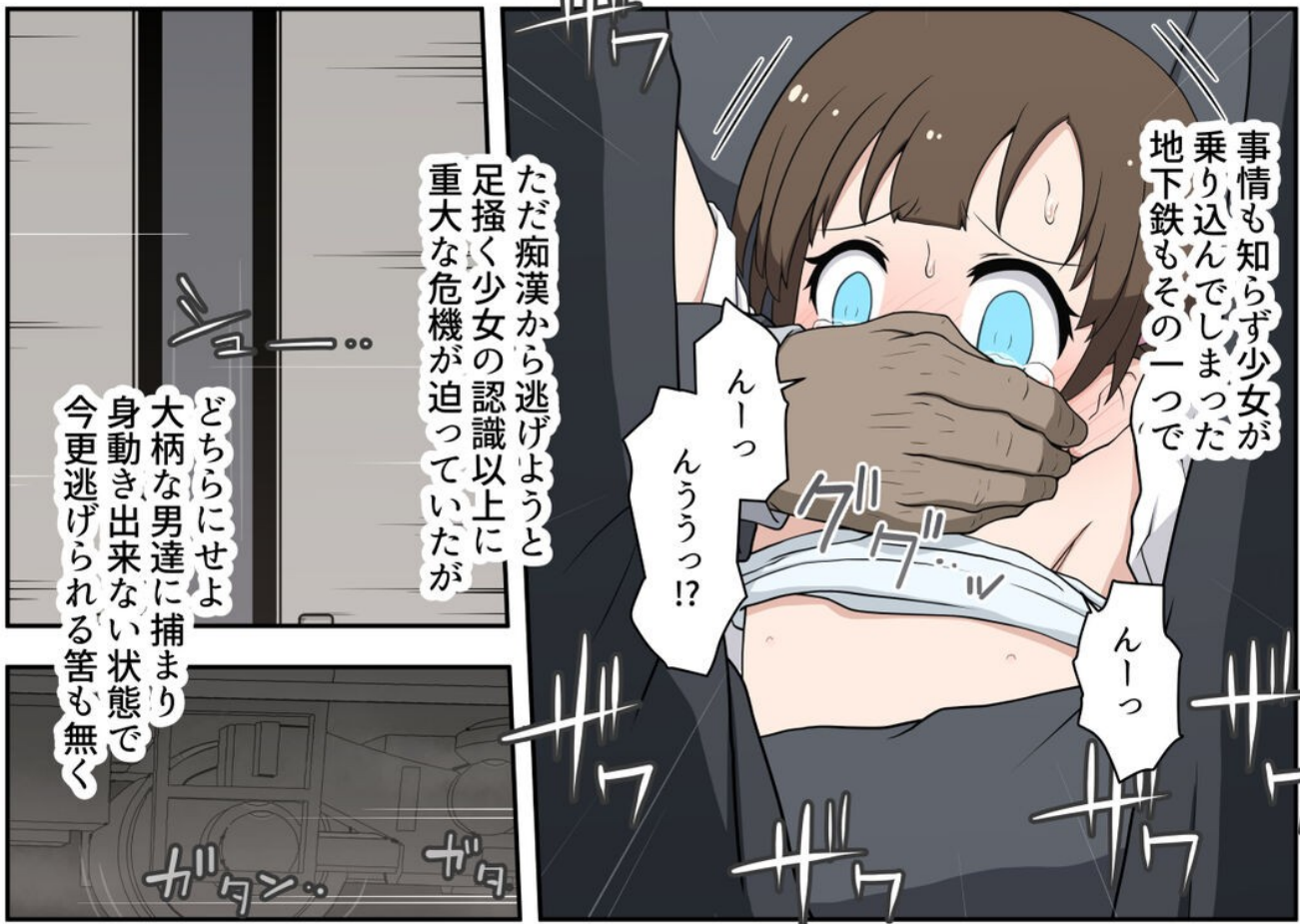
少女を隠しながら
念入りに抑えつけ

終点にも関わらず
男たちは降りる
気配が無いどころか



少女の探していた
終点でも乗客の
降りない電車は

表向き廃線となつた
治安の悪い地域へ
そのまま運行している
非合法なものであり



事情も知らず少女が
乗り込んでしまった
地下鉄もその一つで

ただ痴漢から逃げようと
足掻く少女の認識以上に
重大な危機が迫っていたが

どちらにせよ
大柄な男達に捕まり
身動き出来ない状態で
今更逃げられる筈も無く



無情にも扉が閉じ
逃げ出す最後の
チャンスを失うと

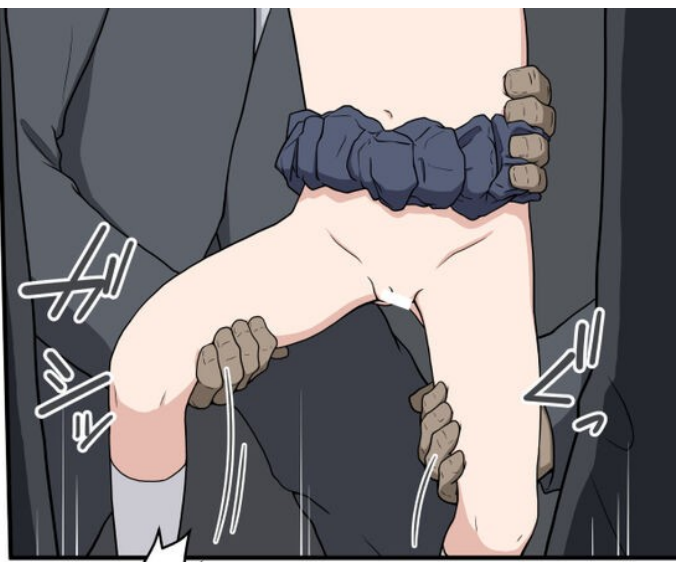
スラム化した
旧地区へと電車が
走り出してしまふ



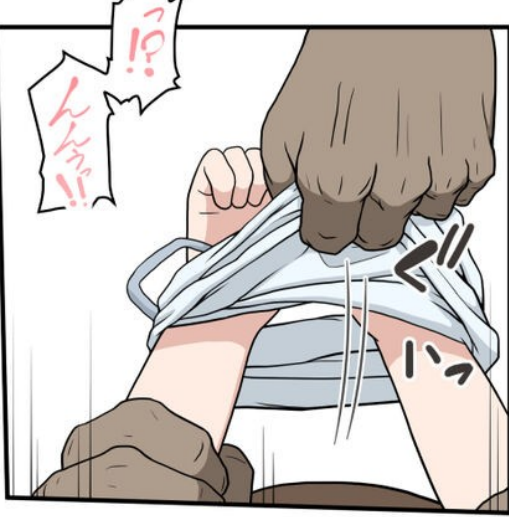
一度境界線を超えて
しまえばもう男達を
止めるものは無く

んー!?

んー!?



んー!?



んー!?



夜の地下鉄での
集団痴漢は完全に
一線を踏み越え

まだ状況が
理解出来ず
戸惑う少女に

とうとう一人目の
巨大なペニス
押し当てられていく



んー!?

小柄な体には
明らかにサイズの
合わない男の巨根が

無理やり小さな
入り口をこじあけ
先端をねじ込んでいき

一瞬力を溜めると

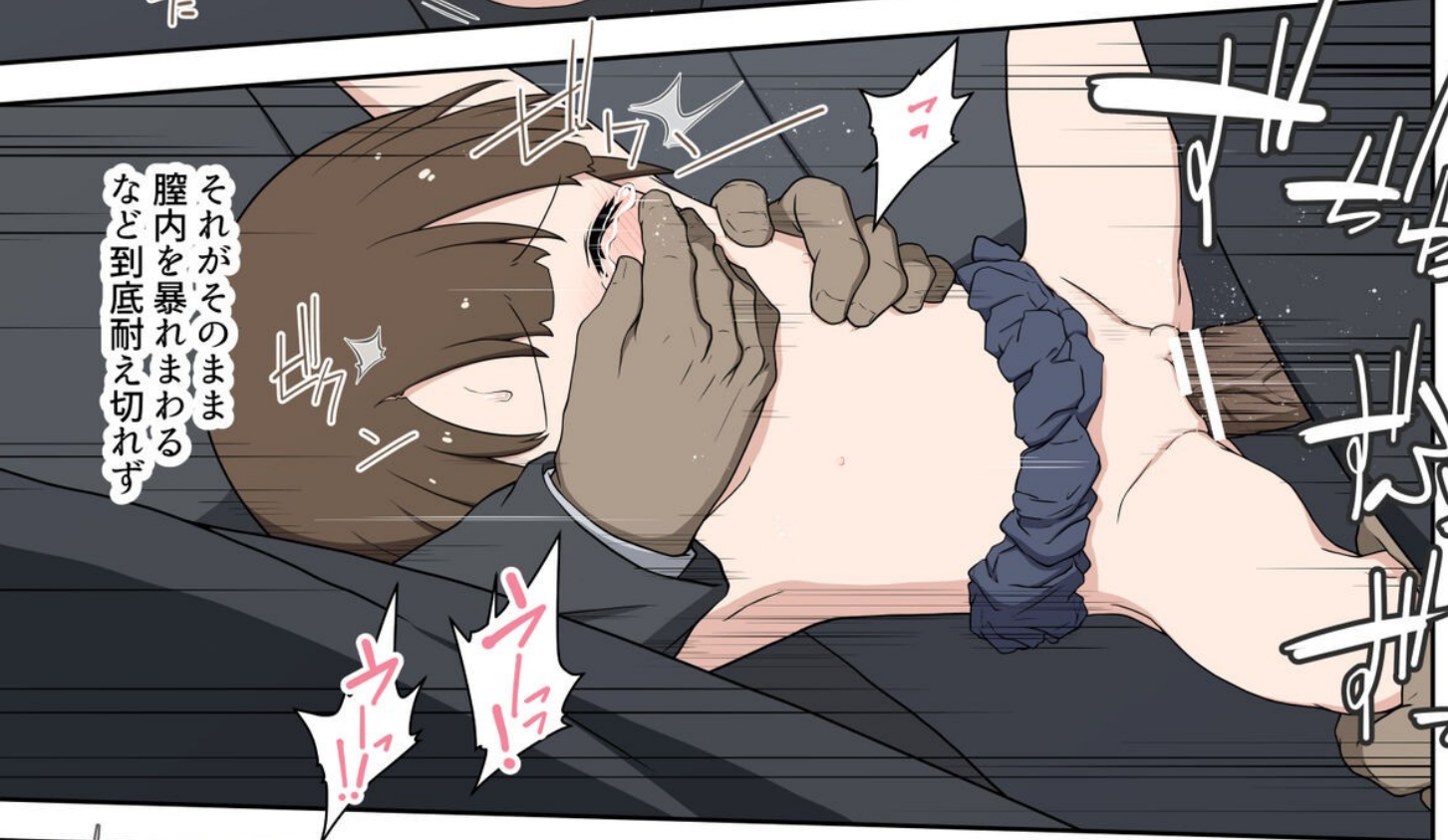
一気に一番奥まで
肉棒が叩き込まれ
少女の絶叫が
響き渡る





何をされているのか
分かっていない
少女にとっては

挿入だけでも
理解を遥かに
超える出来事で

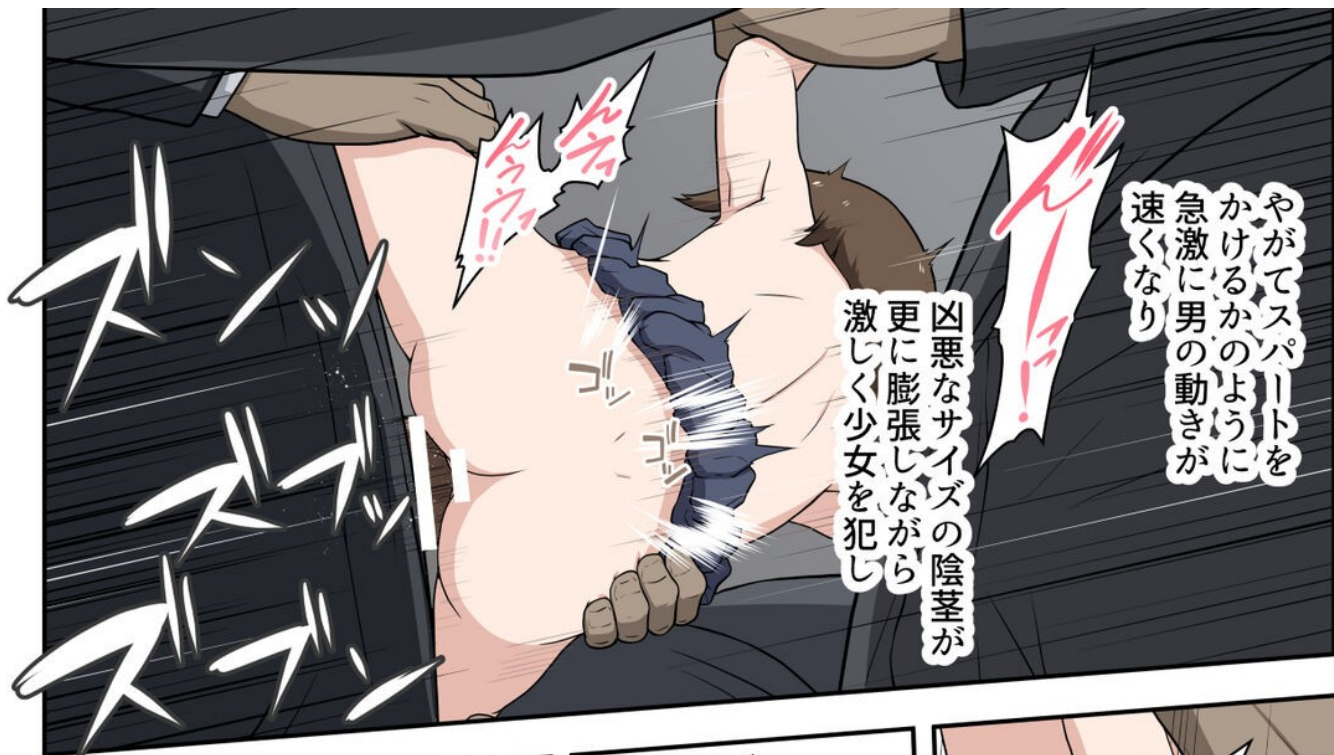


それがそのまま
膣内を暴れまわる
など到底耐え切れず



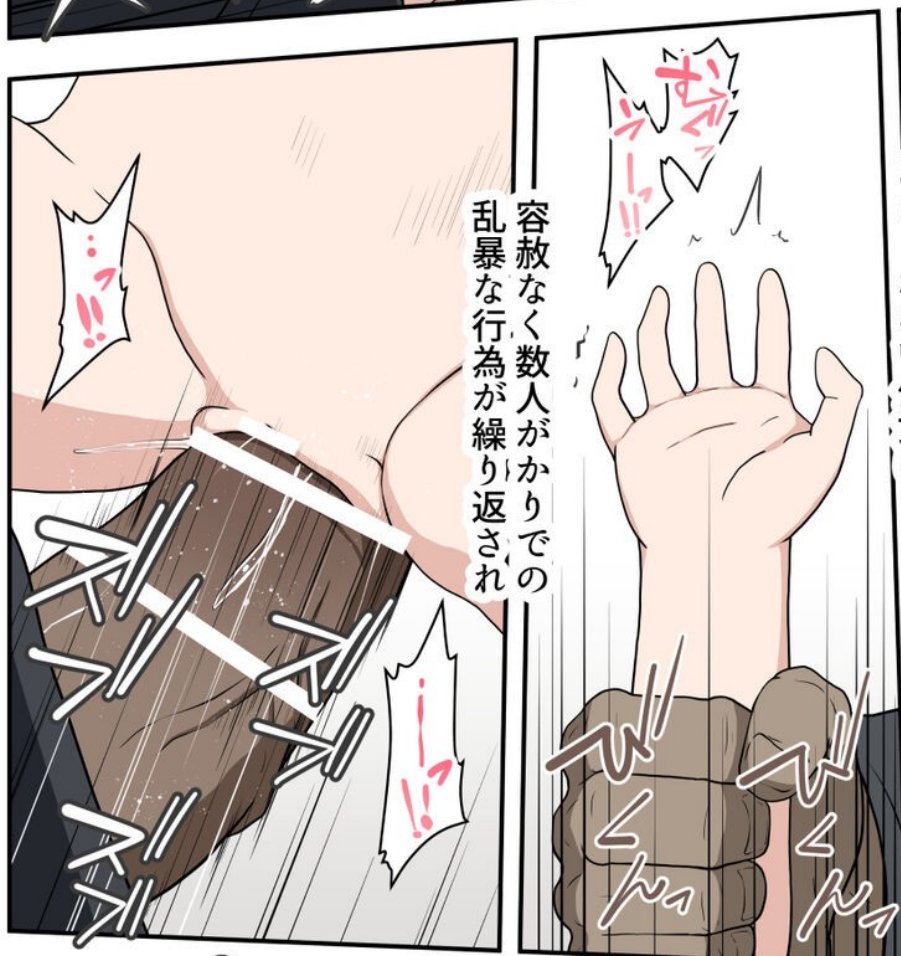
くぐもつた悲鳴が
絶え間なく車内に
響くが

容赦ないピストンは
更に加速し激しく
なっていく

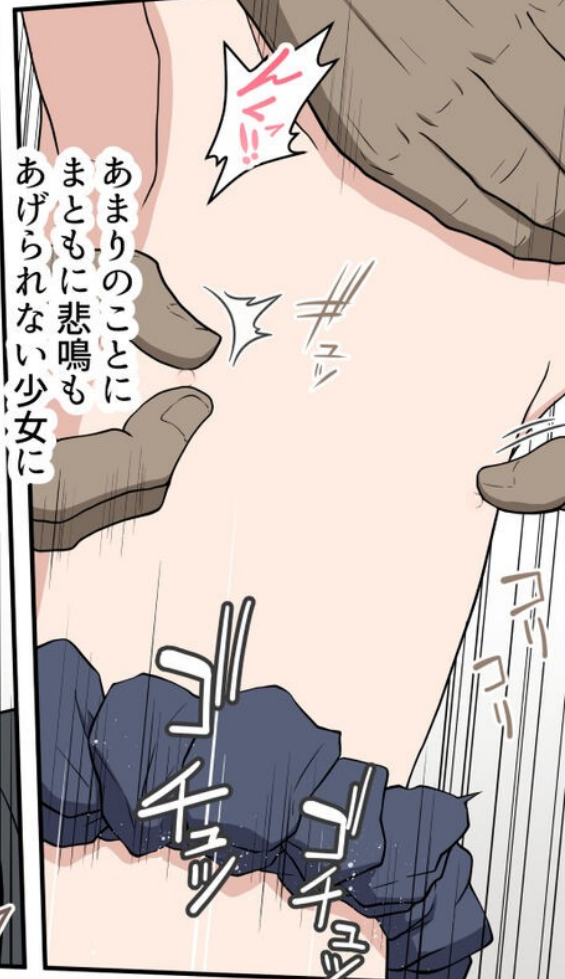


やがてスパートを
かけるかのように
急激に男の動きが
速くなり

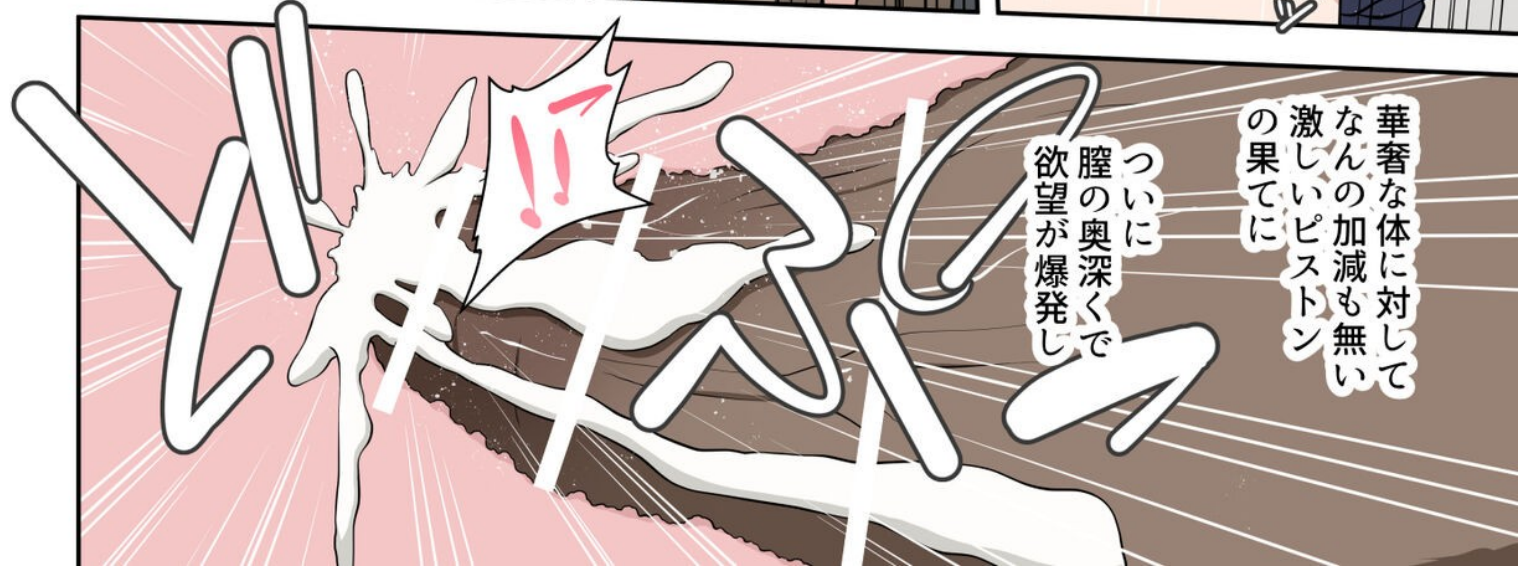
凶悪なサイズの陰茎が
更に膨張しながら
激しく少女を犯し



容赦なく数人がかりでの
乱暴な行為が繰り返され



あまりのことに
まともに悲鳴も
あげられない少女に



華奢な体に対して
なんの加減も無い
激しいピストン
の果てに
ついに
膣の奥深くで
欲望が爆発し



とうとう大量の精液が
少女の中に放たれる



体格差のある巨漢に
容赦なく犯され



少女はもう殆ど
体に力が入らず
放心状態だったが



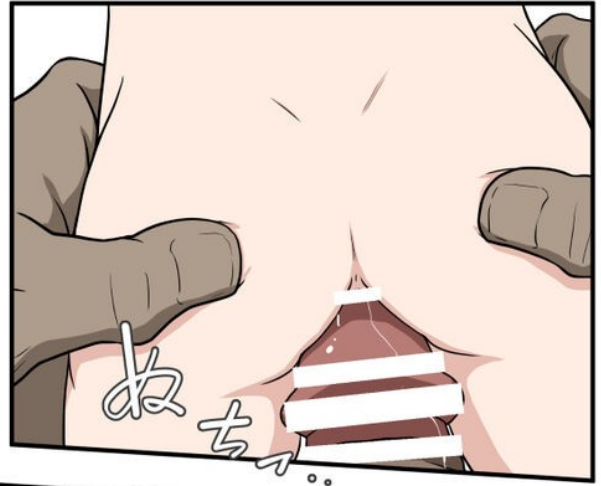
うう…

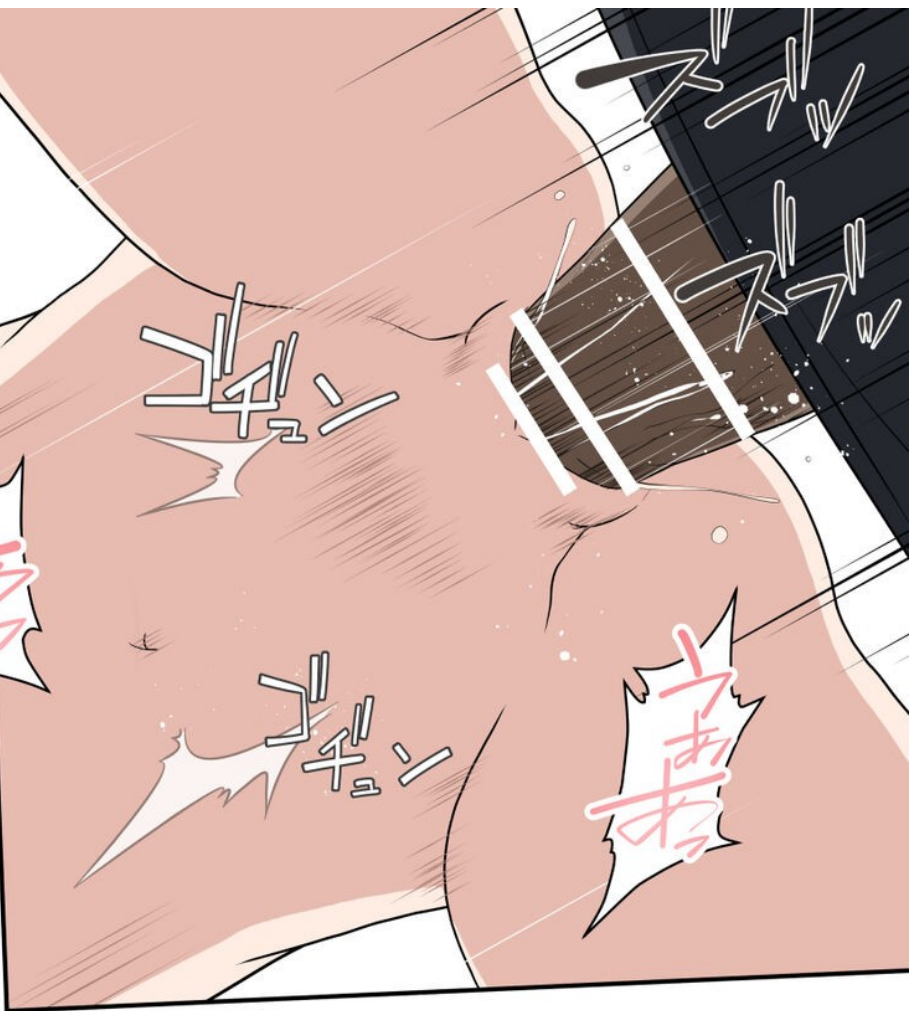
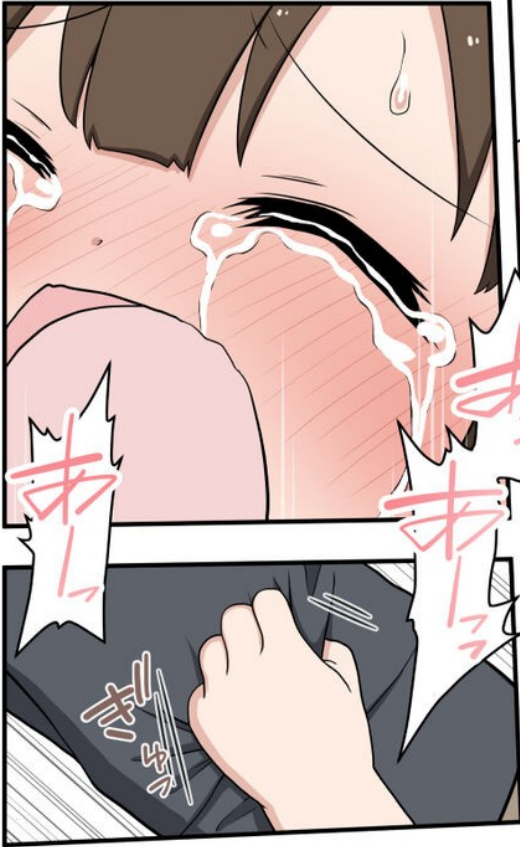
少女にとっては理解を
遥かに超えた壮絶な
出来事でも
それは圧倒的人数差で
始まってしまった輪姦の
ほんの一回目に過ぎず

あ…
え…?

もはや衣類も殆ど奪われ
丸裸の無防備な体に
休む間もなく
更なる危機が押し寄せる







ただでさえ絶望的な
状況の上に
何をされているか
分かっている少女は
隙だらけで

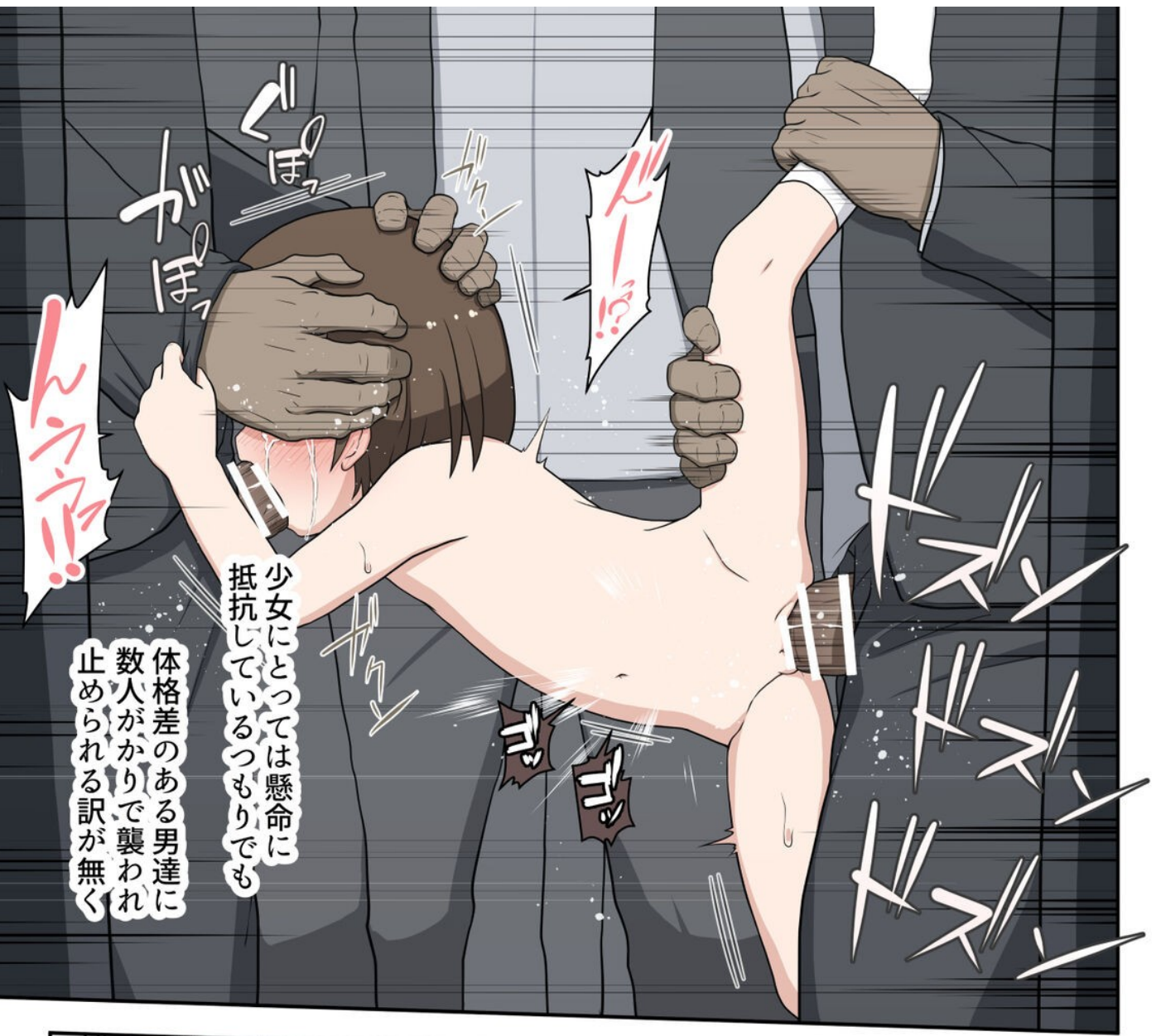
華奢な体を
寄つてたかつて
好き放題に
犯されてしまう

あーあーあー

がほ

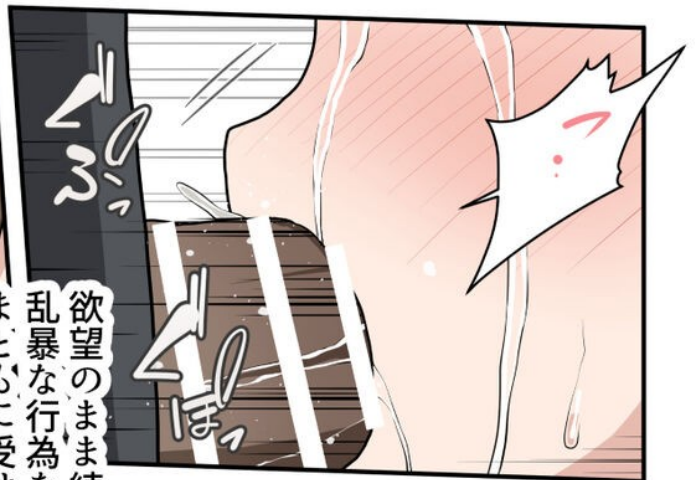
あーあーあー

あーあーあー

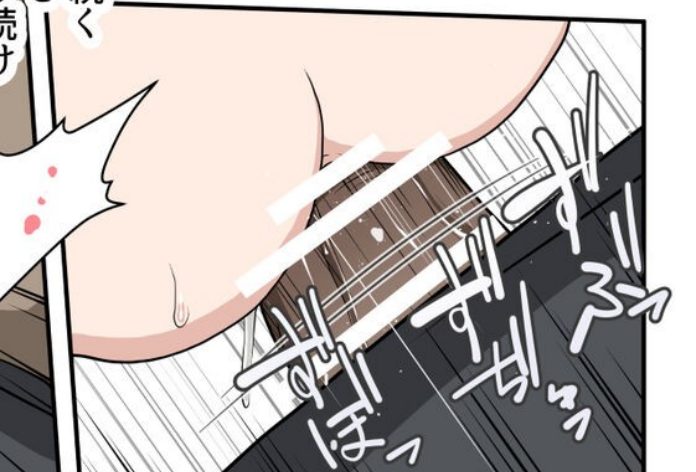


体格差のある男達に
数人がかりで襲われ
止められる訳が無く

少女にとっては懸命に
抵抗しているつもりでも



欲望のまま続く
乱暴な行為を
まともにも受け続け



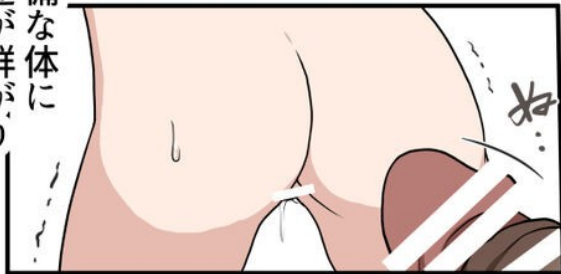


ちいさな体の中に
大量の精液を
注がれ続けていく





丸裸の無防備な体に
車両中の男達が群がり



少女が犯されれば
犯されるほど車内の
熱狂は危険度を増し



や... あっ!!

あっ!!



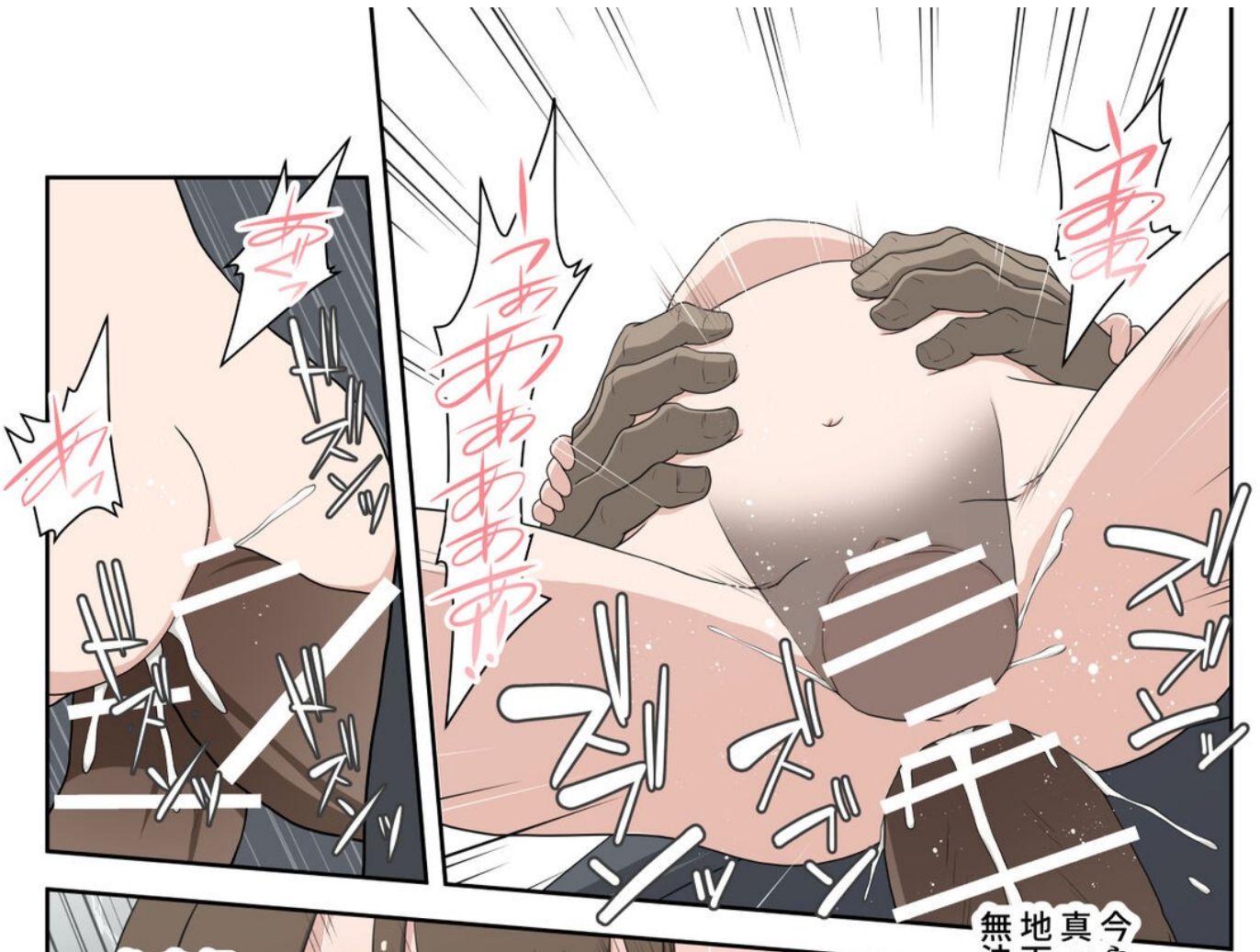
ただでさえ一方的で
休む間もない輪姦が
更に過酷なものに
なっていく



もはや挿入も一人ずつで
済まされる状況ではなく

一本でもギチギチだった
小さな下腹部にとうとう
巨根を二本差しされてしまい

無防備な体制で抱えられ
身構える事も出来なかった
少女の絶叫が響き渡る



今やスラム地区の
真っ只中を走る
地下鉄内は完全に
無法地帯と化し

何も知らず迷い込んだ
少女はたったひとり
危険な集団に襲われ続け



逃げ場の無い暗い
地下鉄の車両内で



欲望のまま
犯され尽くしていく



容赦なく続く
大量の中出しは
とても少女の中に
入り切らず

さらさら
さらさら
さらさら

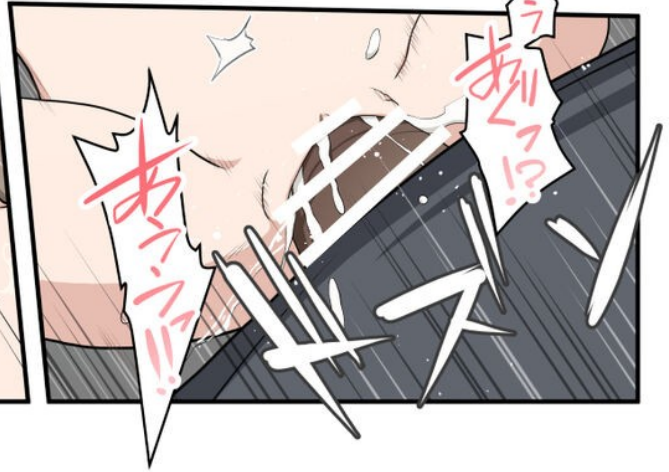
一組が終わるごとに
ちいさな股間から
膨大な量の白濁液が
溢れ出し



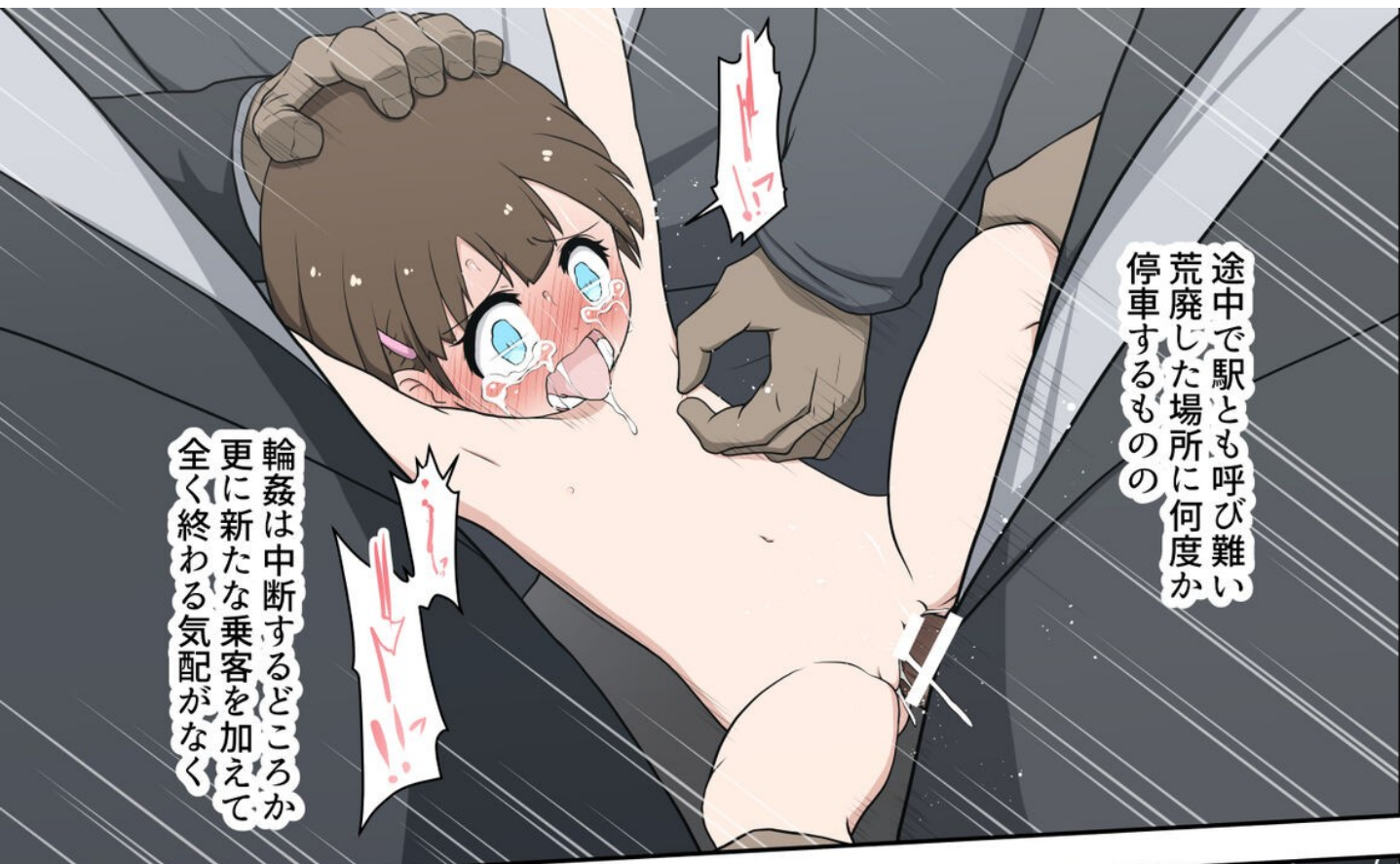
華奢な体が大勢の男達に
絶え間なく蹂躪されていく



それでもなお
奪い合うように
新たな集団から
襲われ続け

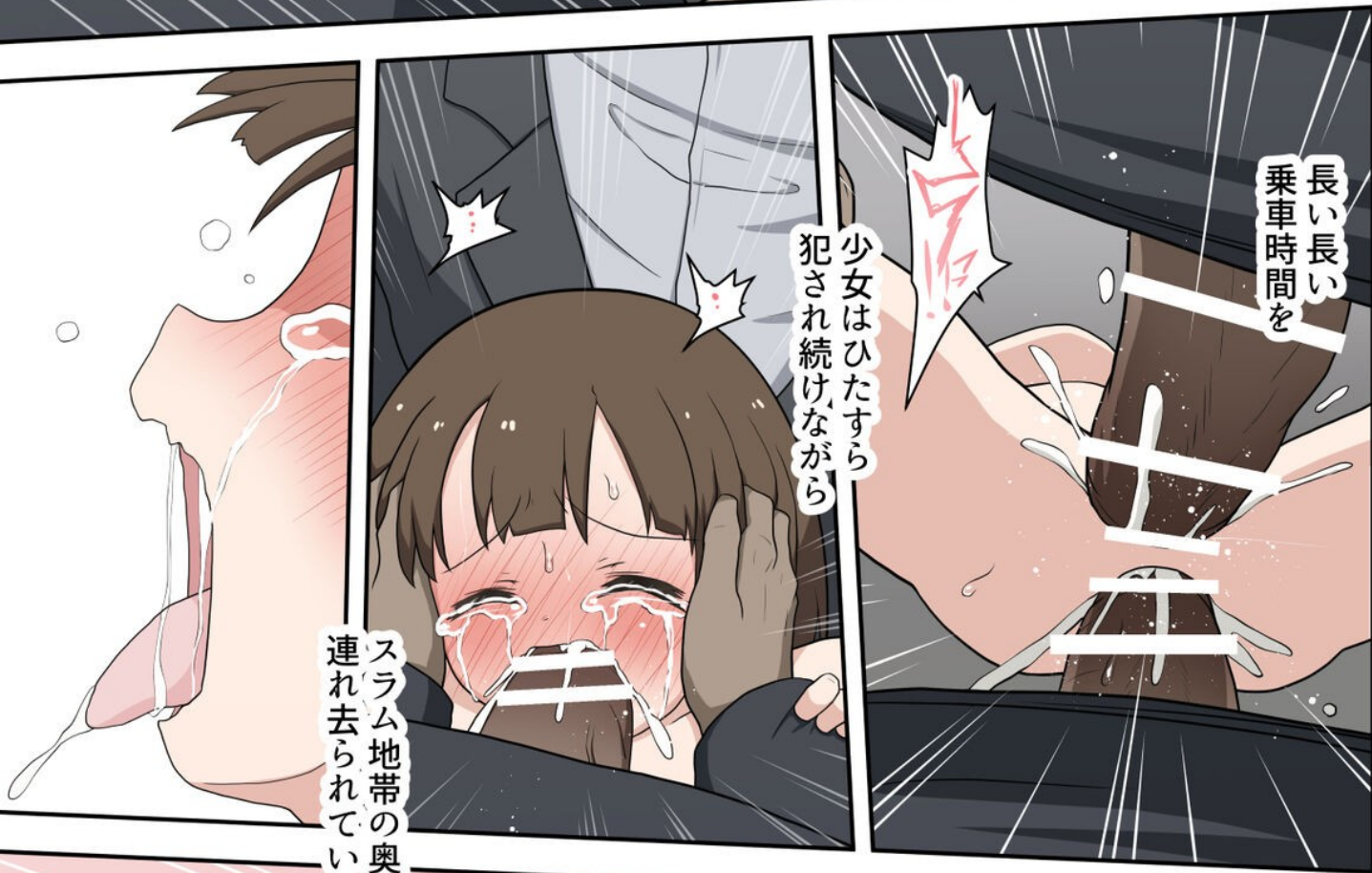


ウッウッ!!
ウッウッ!!



途中で駅とも呼び難い
荒廃した場所に何度か
停車するもの

輪姦は中断するどころか
更に新たな乗客を加えて
全く終わる気配がなく




長い長い
乗車時間を

少女はひたすら
犯され続けながら


スラム地帯の奥へと
連れ去られていく





少女のちいさな体には
到底受け止めきれない
膨大な量の精液が
幾度となく放たれ続け

ようやく電車が
目的地に着く頃には
もう床までドロドロに
なっており



途方も無い数の男達に
犯され続けた輪姦の
凄まじさを物語っていたが

違法な電車の終着駅が
安全である筈も無く



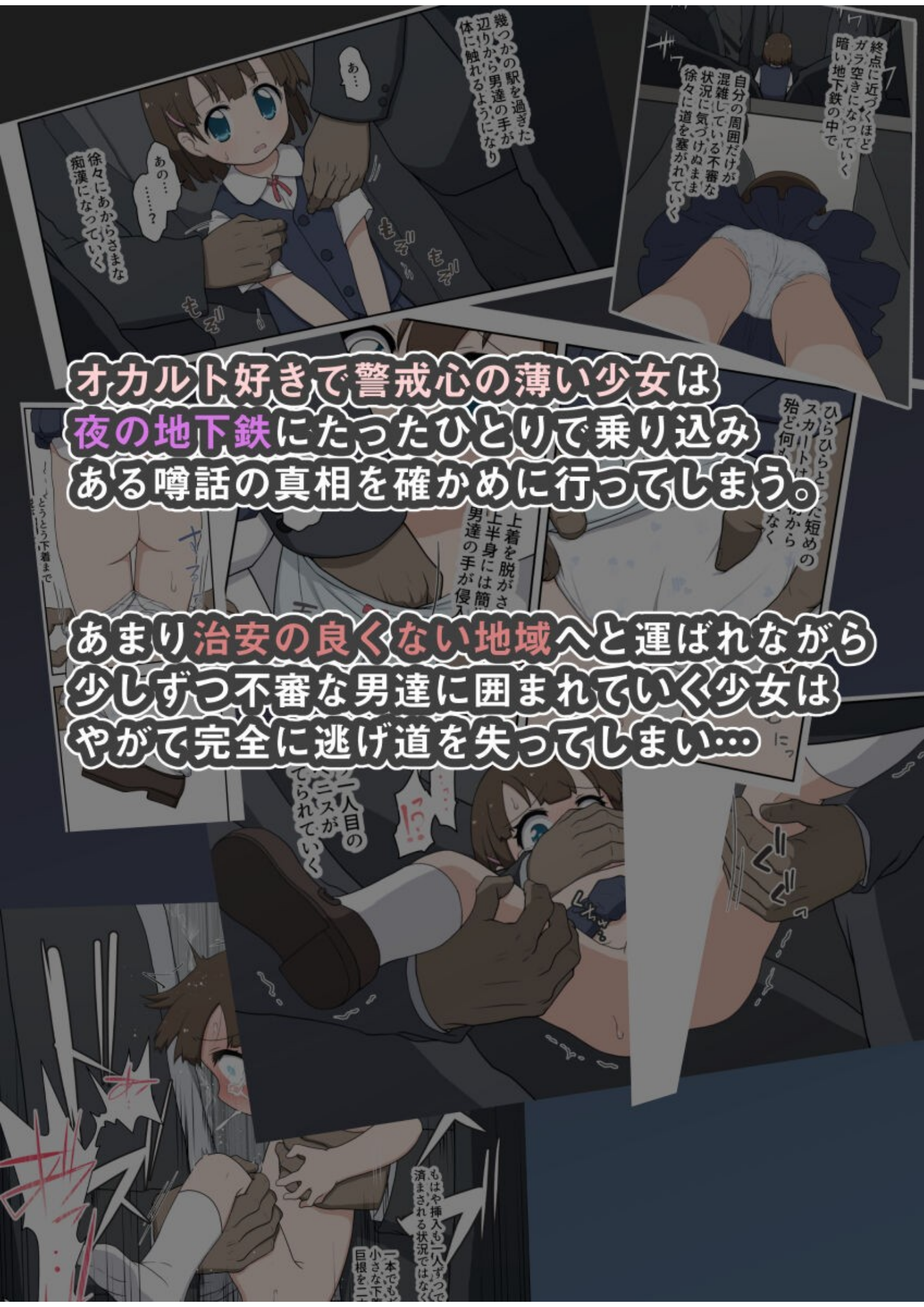
ドアが開いた先に
待っているのは
解放とは真逆の
出来事で

更に過酷で果てしない
絶望的な輪姦が
待ち受けていた…

無数の無法者達が蠢く
薄暗い地下施設へと
攫われていく少女には

無法地帯行き集団痴漢列車

作者：偽もの (<http://pixiv.me/mbby>)
製作年：2021年



終点に近づくほどガラ空きになっていく暗い地下鉄の中で

自分の周囲だけが混雑している不審な状況に気づけぬまま徐々に道を塞がれていく

幾つかの駅を過ぎた辺りから男達の手が体に触れるようになり

あ…
あの…
徐々にあからさまな痴漢になっていく

オカルト好きで警戒心の薄い少女は夜の地下鉄にたったひとりで乗り込みある噂話の真相を確かめに行ってしまう。

ひらひらと短めのスカリトは殆ど何もなく

上着を脱がさ上半身には簡男達の手が侵入

あまり治安の良くない地域へと運ばれながら少しずつ不審な男達に囲まれていく少女はやがて完全に逃げ道を失ってしまい…

一人目のミスが三つ目になっていく

もはや挿入も一人ずつで済まされる状況ではなく一本でも小さな下巨根を二